

ゲーデ弦楽四重奏団 2011 年聖学院公演

プログラム

Nov. 5, 2011 (Sat)

メンデルスゾーン 弦楽四重奏曲第 6 番 ヘ短調 作品 80 より 第 1 楽章及び第 3 楽章
F. Mendelssohn 1 アレグロ ヴィヴァーチェ アッサイ 3 アダージョ

1st and 3rd movement from String Quartet No. 6 in F minor, Op. 80
1 Allegro vivace assai 3 Adagio

ラヴェル
M. Ravel

弦楽四重奏曲 ヘ長調

1 アレグロ モデラート - トレ ドゥ 2 アッセ ヴィフ - トレ リメ
3 トレ ラン - モデレ 4 ビフ エ アジテ

String Quartet in F major

1 Allegro moderato - Tres doux 2 Assez vif - Tres rythme
3 Tres lent - Modere 4 Vif et agite



ルグラン
M. Legrand

シェルブールの雨傘

Les Parapluies de Cherbourg

シュトラウス 2 世
J. Strauss II

突撃ポルカ

Im Sturmschritt Polka schnell, Op. 348

ピアソラ
A. Piazzolla

ピアソラメドレー

天使のミロンガ ~ リベルタンゴ ~ 忘却
Milonga del Angel Libertango Oblivion

トゥリーナ
J. Turina

闘牛士の祈り

La oracion del torero, Op. 34

プッチーニ
G. Puccini

菊の花

Crisanterni

コルンゴルト
E. W. Korngold

弦楽四重奏曲第 2 番 変ホ長調 作品 26 番より 第 4 楽章

4 フィナーレ: テンポ ディ ヴァルス

4th movement from String Quartet No. 2 in E flat major, Op. 26

4 Finale: Tempo di valse



シュトラウス 2 世
J. Strauss II

喜歌劇「こうもり」より 序曲

Die Fledermaus Overture

聖学院大学フィルハーモニー管弦楽団

コンサートマスター: ダニエル・ゲーデ

ピ ア ノ: 村山 順吉 (聖学院大学教授)

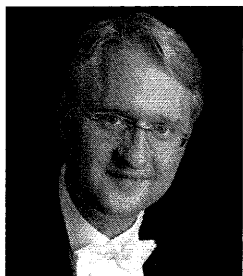
指 揮: 村山 良介 (聖学院大学講師)

演奏家の都合により本プログラムは変更されることがあります。

ゲーデ弦楽四重奏団

Gaede Quartet

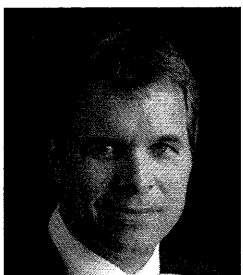
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団前コンサートマスター、ダニエル・ゲーデは現在ニュルンベルク音楽大学ヴァイオリン科主任教授の要職にあるが、ソリストとしての活躍も目を見張るものがあり、他方室内楽奏者としてはゲーデ3兄弟によるゲーデ・トリオやピアニスト、マリノ・フォルメンティらと組んでのウィーン・フーゴ・ヴォルフ三重奏団等活発に活動をしている。そして本年5月には長年の夢であった弦楽四重奏団を組織することとし、第2ヴァイオリンに幼馴染のステファン・フーヴァー（バイエルン放送交響楽団団員）、ヴィオラにはマティアス・シェスル（バイエルン放送交響楽団団員）、そしてチェロは実弟のセバスティアン・ゲーデ（ハンブルク国立歌劇場団員）を選び活動を開始した。



■ダニエル・ゲーデ（ヴァイオリン） Daniel Gaede

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団前コンサートマスター

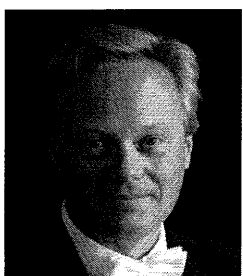
1966年ドイツ、ハンブルクに生まれる。6才よりヴァイオリンを始め83年ドイツ国内コンクール第1位及びカール・フレッシュ国際コンクール優勝。1986年にはクラウディオ・アバドの主宰するヨーロッパ・ユースオーケストラのコンサートマスターに就任、1991年より94年までベルリン芸術大学で教鞭をとり2000年以降はニュルンベルク音楽大学ヴァイオリン科主任教授の要職にある。1994年から2000年までウィーン・フィルハーモニー管弦楽団及びウィーン国立歌劇場管弦楽団でコンサートマスターを務めた。わが国ではウィーン・フーゴ・ヴォルフ三重奏団他、多彩なコンサート活動の傍ら積極的に後進の指導にあたっている。



■ステファン・フーヴァー（ヴァイオリン） Stephan Hoever

バイエルン放送交響楽団団員

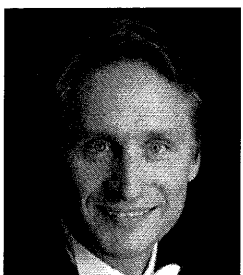
1965年にドイツ、エッセンに生まれる。幼少時より父親からヴァイオリンの指導を受け、デュッセルドルフのシューマン・アカデミーでミカエル・ガイザー教授に学び1992年に首席で卒業、更にDAAD 奨学金を得てアメリカに留学し、インディアナ大学ブルーミントン音楽学校でフランコ・グツリ教授の教えを請う。クラウディオ・アバドの主催するヨーロッパ・ユースオーケストラで第2ヴァイオリンの首席奏者を務める。1993年から1995年までチューリッヒ・トーンハレ管弦楽団団員、1995年以来バイエルン放送交響楽団団員となる。またミュンヘン弦楽四重奏団のメンバーとしても活躍している。



■マティアス・シェスル（ヴィオラ） Mathias Schessl

バイエルン放送交響楽団団員

1967年バイエルンの州都ミュンヘンに生まれる。ゲアハルト・ザイツ教授のもとヴァイオリンの指導を受ける。1987年ヴィオラを専攻することとし、父親であるフランツ・シェスルの指導を受ける。1984年から1990年までザルツブルク音楽院に学び、トーマス・リーベル及びキム・カシュカシアンに教えを請う。すでにこのザルツブルク音楽院時代にはシャンドル・ベークの主宰するザルツブルク・カメラータ・アカデミアの一員として活躍する。1993年にはスイスの名門チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団の首席ヴィオラ奏者に就任する。1998年に郷里の誇りであるバイエルン放送交響楽団団員となる。



■セバスティアン・ゲーデ（チェロ） Sebastian Gaede

ハンブルク国立フィルハーモニー管弦楽団団員

1967年にドイツ、ハンブルクに生まれる。5才よりチェロを学びハンブルク音楽アカデミーに進みウオルフガング・メールホーン及びベルンハルト・グメリンの指導を受ける。1983年ドイツ国内コンクール第1位、1986年にはエドアルド・ゼーリング賞を受賞する。1988年まで2人の兄と共にゲーデ・トリオを組む。1986年から1990年までクラウディオ・アバドの主宰するヨーロッパ・ユースオーケストラに所属する。1992年以来ハンブルク国立フィルハーモニー管弦楽団団員となり、1995年からバイロイトフェスティバル・オーケストラのレギュラーメンバーでもある。また室内楽奏者としても多くの演奏会に出演している。

* バイエルン放送交響楽団は1949年にバイエルン放送網(BR)によってミュンヘンに設立されたオーケストラであり、設立時にはオイゲン・ヨッフムが音楽監督を務め、以来ラファエル・クーベリック、サー・コリン・デイビス、ロリン・マゼールと常に第一線で活躍する巨匠を歴代音楽監督に迎え、2003年からマリス・ヤンソンスがその任にあたっている。比較的新しいオーケストラではあるが、今日のドイツを代表する名門オーケストラである。